



## 遊休農地再生事業（通称「Uプロジェクト」）次のステップへ！

長く厳しかった冬も終わりを告げ、季節は春へと移り変わりました。Uプロジェクトも新たなメンバーを加え、次のステップへと踏み出しました。「かたくり二号」で紹介した通り、遊休農地はこれまでの作業で整備が進み、見違えるほどの姿へと変わりました。今月号ではその後の作業の様子、そして福島大学の取り組みなどをお伝えしたいと思います。

### なぜ「Uプロジェクト」か？

大学隣接遊休農地復活・再生事業では、あまりに名称が長すぎて覚えにくいので、「Uプロジェクト」と通称することにしました。「遊休農地」の頭文字「遊」とUが同じ音という単純な理由が第一ですが、それだけでなく、「結（ゆい）」、「ユニバーシティ（大学）」、「Uターン」、「ユニゾン（調和・斉唱）」などいろいろな思いを込めています。

### ○ 第四回作業（四月四日）

四月四日の遊休農地の作業に大黒先生をはじめ、地元の人たちや小学生、福島大学の環境サークル「ラフメイカー」の皆さんなどが参加してくれました。以下は、この作業に参加された大黒先生に伺ったお話です。

最初は、トラクターを使って本格的に農地を耕しました。遊休農地の場所は長い間耕作放棄されていたため、ウンボ（削岩機・掘削機などをのせた大型車）を使って土を掘り起こして大きな石を取り除いた後、笹などの根や石が土の中に大量に残っていました。トラクターを使って地面を耕し、その後を小さい石や根っこなどを拾い集める、というのがその日の主な作業でした。

四時間ほどの作業で、石や根っこがだいぶ取り除かれたような気がしました。耕されたばかりの土は、ふんわりと柔らかくなり、まさに土そのものの匂いがして、太くて長いミミズも発見されました。地域の皆さんの話によれば、雨が降る前に土を耕し、雨の後に再び土が乾く、といったプロセスが大切だそうです。小さなものを含めた石を取り除きさえすれば、もう、農地としての種まきも可能だそうです。

今回地元の人にトラクターを操作してもらったのですが、その人のトラクターの扱い方はとても見事なものでした。巨大なトラクターを楽々と操作して、あっという間に耕運を進める地域の皆さんの技能には、改めて感嘆しました。機械の操作をいつまでも地域のの人に任せてはおけない、ということでも大型特殊免許を取得し、ウンボやトラクターを運転できるように、自動車学校に通う人も出てきているようです。

また、今回は遊休農地の作業に初めて小学生が加わりました。今後小学生だけでなく、中学生や高校生といった生徒の人たちの作業の参加も期待したいと思いました。



### ○ 第五回共同農作業

（四月三十日）

急に夏に近づいたような暖かさになった四月三十日（金）の朝十時。遊休農地には、福島大学の佐々木ゼミ・大黒ゼミ・西崎ゼミ・松野ゼミ・塩谷ゼミの先生とゼミ生、環境サークル「ラフメイカー」さん。そして金谷川地区の老人会のみなさんと、アップルファイブのみなさん。総勢八十名ほどの人たちが集まり、第一回Uプロジェクト共同植え付け作業&バーベキュー大会を行いました。今回は、種まきを中心作業をしました。

午前中は主に小石・根の除去作業をしました。前回までの作業で、農地は見違えるほどきれいになったものの、耕作するには石や根が多く作業が困難になってしまいます。十年以上耕作が行われていなかったこともあり小石や根は思っていたよりも多く、中にはしぶとい根もあり、戦いは白熱したものとなりました。その後きれいになった農地を、新しく購入した私たちの頼もしい味方であるミニ耕運機『陽菜』で耕していきました。これで午前中の作業は終了しました。

ここで、待ちに待ったバーベキュー大会の始まりです。焼き肉だけでなく、ハンバーグやおにぎり、焼きそば、いも煮などが地元の方の協力のもと用意され、私たちのおなかを満たしました。また、地元の方から甘くておいしいイチゴやゼリーの差し入れもいただくことができました。天候も穏やかで気持ちよく、みんなで一緒に仲良く食べるのができ、おいしさも倍増しました。



午後最初の作業は、牧草の種まきです。十五アールくらいの広さの農地に、なるべく均等になるように二袋分の種をまきました。次に行ったのは、種イモの植え付けです。耕運機で耕した農地を地元の方ご指導のもと糸を使って場所を決めクワでうない、午前中のうちに切った灰を付けておいた種イモ（きたあかり六キロ・男爵六キロ）を等間隔に置いて行きました。種イモに灰を付けるのは、植えた後に腐食してしまうのを防ぐためです。そして置いた種イモの上に灰をまき、最後に土をかけていきました。ここで灰をまいたのは、肥料を使う代わりとして土に養分を与えるためです。クワで作業をしている途中再び出現したしぶとい根たちと格闘したり、普通ならば農地には存在しないような入れ歯を掘り出してしまったりと多くのハプニングに遭遇しましたが、無事に十二キロの種イモを植えることができました。また、種イモ植えと並行して、数名のゼミ生が耕運機操作を体験させていただきました。目で見ると簡単そうに見えても、実際操作してみると意外と難しく、結構力も必要で、苦戦を強いられました。作業途中耕運機にしぶとい根たちが絡まりエンストしてしまい、冷や汗を流すような場面もありました。しかし、なかなかできない体験をすることができたので、今後の作業にもつなげていければと感じました。



一日の作業が終了し、農地をより畑らしい姿へと変えることができました。地元の方と協力しこれから理想の農地にもっともっと近づけていきたいと思っています。



## ○地質調査（五月十三日）

五月十三日（木）、遊休農地にて、福島大学共生システム理工学類の柴崎直明先生と学生十六名、アシスタントの大学院生四名による「地球環境科学実験」での地質の電気探査が行われ、遊休農地再生事業を行っている我々は、どのような探査をしているのか興味を持ち、取材にいつてきました。



電気探査とは、地面に四本の電極を配置し、外側一対の電極に電流を流し、内側一対の電極で電位差を測定することにより、地盤がどれくらい電気を通すかを数値で表した「非抵抗」と呼ばれる値を測定する調査です。電気間隔を変えることにより、深度七十メートル程度までの地下地質構造を推定することが可能であり、特徴は、周囲の植生や環境に悪影響を及ぼすことなく、労力を使わずに調査できるところだそうです。

気候に実験結果を左右される電気探査なのですが、当日はとても晴れていて悪天候に影響される心配もなく実験を行うことができていました。



調査の現場では、地面に電線を直線にのぼし、各四つの電極に一つの班が担当して装置に指示された数値を測定し、中央に先生が立ちトランシーバーで指揮をとるといって調査を行っています。

実際の実験を拝見させていただいたところ、実験の装置に表示された数値を三十回程度測定し、その数値をもとにグラフを作成してオームの法則によって非抵抗を導き出しています。

また、実験中の大学院生にお話を伺ったところ、電気探査とは別の、ボーリング調査の実験器具を実際に触らせていただき、ボーリング調査を体験させていただきました。今回体験させていただいたボーリング調査の方法は、もっとも原始的な方法で、器具を使って人力でひたすら地面を掘っていくというものでした。

このような体験や、専門的なお話を聞くことができて我々にとっても貴重なものとなりました。また、先生をはじめとする大学生、院生の方々、お忙しいところ貴重な時間をさいて取材に応じてくださり、本当にありがとうございます。

なお、今回の実験の調査結果につきましては次回の「かたくり」にて紹介させていただきたいと思えます。

実際にボーリングの体験をしている様子



## ○ラブ！金谷川（第一回）

今号から金谷川で活動している団体を紹介する連載を始めます。その名も「ラブ！金谷川」。第一回は福島大学の「環境サークル ラフメイカー」です。

四月三十日の第五回共同農作業に参加していたラフメイカー現代表の鈴木悠也さんと前代表の沼木俊亮さんにお話を聞きました。

ラフメイカーは二〇〇七年夏に結成され、現在は二十人ほどで活動をしており、福島大学周辺の環境改善、福島大学の学生のエコ意識の向上を目標に掲げています。主な活動として、月一回のゴミ拾い、〇八年から毎年十二月に実施しているキ



ヤンドルナイト、掲示板整理、自転車の回収・学祭での販売、ビラ回収ボックスの設置などを行っています。一昨年のヤンドルナイトでは、学食の廃油から作ったろうそくを使用したそうです。その他には〇七年には生協の残飯から肥料を作り、〇八年からその肥料を使って畑作りを開始しました。四月四日に遊休農地で行われた、パイプを設置して水路を整備する作業にも参加し、その作業での交流がきっかけで四月十日の黒沼神社の例大祭にも参加し神輿を担ぐなど、様々な活動を幅広く行っています。



ごみ拾いの際は、ごみの量の統計をとっていますが、なかなかごみの量が減らないという現状があります。今年度から福島大学の構内は全面禁煙になったにもかかわらず、未だにたばこのポイ捨ては減りません。むしろ、大学構

外、特に金谷川駅と福島大学の間の道で、ポイ捨てされたたばこの量が増えています。このような現状では、地域の方々にとって全面禁煙は悪いこと、と言えるかもしれません。

ラフメイカーのように身近な問題に気づいてほしいと日々活動している方々がいます。

ごみのポイ捨てはひとりひとりが気をつけなければ無くなりません。みなさんも身近なところに目を向けて環境改善に努めるよう、ご協力お願いします。



## ○金谷川地区をもっと知ろう！

塩谷ゼミに所属する一年生二十五名が五つの班に分かれて、福島大学の所在地である金谷川について、もっと多くのことを知るためにそれぞれ独自のテーマを独自の方法で調べ、五月十三日のゼミでそれぞれの研究成果を発表しました。以下に各班のテーマと概要を紹介したいと思います。

- 第1班 快適に大学生活を送ろう  
駅から大学までの近道・電車の混み具合を調査
- 第2班 金谷川の珍三景  
白ポスト・しぎはらビル・産地直売所の場所を確認
- 第3班 金谷川の神社探検  
大学周辺にある九つの神社の場所・勧請年を調査
- 第4班 金谷川駅について  
駅の歴史と学生の駅利用のマナーを取材
- 第5班 金谷川のあれこれ  
関谷八幡宮やかつて存在した青年会の調査

となりました。各班、自分たちが決めたテーマについて聞き取りをしたり、文献を調べたりと熱心に調査していたようです。しかしまだまだ金谷川について、調べることはたくさんあるので、引き続き調査してその成果を発表していければと思います。

## お知らせ

瓦版『かたくり』では、金谷川地区と大学との交流を進めるために、互いの行事やイベントを掲載していきたいと思えます。お祭り、運動会、コンサート、講演会、サークルの活動などなんでも結構ですので、情報をお知らせいただければ幸いです。また、『かたくり』に対するご意見・ご要望もぜひお寄せください。連絡先は福島大学塩谷研究室（TEL&FAX: 548-8328 MAIL: shioya@ads.fukushima-u.ac.jp）です。よろしくお願いたします。なお、本号の編集は、塩谷教養演習一年生の荒木秀司・郡司溪太・後藤沙奈恵・佐々木菜那が担当しました。